

特別研究員一PDの就職状況調査結果について

平成28年4月1日現在

PDの「常勤の研究職」への就職状況

直後

(平成27年度終了者): 55.5%

1年経過後

(平成26年度終了者): 72.7%

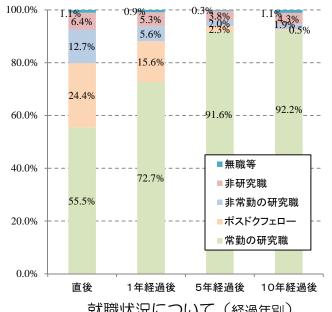
5年経過後

(平成22年度終了者):91.6%

10年経過後

(平成17年度終了者): 92.2%

※ 割合は不明者等を除いて算出



就職状況について(経過年別)

《調査結果より》

日本学術振興会特別研究員-PDは、5年経過後調査では、91.6%が 「常勤の研究職」に就いており、我が国の研究者の養成・確保の 中核的な役割を果たしている。

特別研究員制度とは

優れた若手研究者に、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究 課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。

大学院博士課程修了者等で、将来研究者となることを目指す者を「特別研究員-PD」 に採用し、3年間フェローシップを支給。

